

(様式1)

令和3年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立第二寺島小学校
校長名	中村 奈緒美

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・国語と算数は昨年度に設定した目標である「目標値と全国平均を全学年上回ること」が達成できた。・経年比較でみて、算数の主体的に学習に取り組む態度が高学年で大幅に上昇した。・区平均との比較では、昨年度4年生以上は5年算数以外、すべての教科で下回っていたが今年度4年生は全教科、5・6年生は2教科上回った。	<ul style="list-style-type: none">・2・3年生の国語と算数は目標であった平均正答率90%に届かなかった。国語の書くことや読むことが区平均正答率に届かず、今後の課題である。・理科は前年度に比べると上昇したが、4・5・6年生すべてで全国平均を下回った。・5・6年生の社会は問題文を読むことに手間取り、最後の方の問題が無回答で終わる児童が全体の1割程度いた。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・学習意欲が2年生以外、全国値を上回った。・6年生は学習習慣53.2、学習意欲54.9と学校全体で最も高い数値であった。経年変化で見ても、学習習慣が+0.5上昇した。	<ul style="list-style-type: none">・2・3・4年生は学習習慣が全国値を下回った。経年変化で見ると、3年生-0.7、5年生-2.9となり、大きな課題が残った。・2年生は学習意欲が47.2、学習習慣47.7と全国値を大きく下回った。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・朝学習での国語の漢字練習や算数の計算練習、放課後補習教室等、年間を通して繰り返し行った成果が出ている。・昨年度からの取り組みである学校全体で統一した授業規律が定着し、指示することなく児童が自主的に行えるようになってきた。	<ul style="list-style-type: none">・100マス、200マス作文を週末の家庭学習として全校で取り組んでいるが、書くことの正答率が昨年度とさほど変化がなく、大きな成果が表れなかった。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 授業内での取組

①書く力や読む力を伸ばすための継続的な「視写」

- ・授業の中や家庭学習で視写を取り入れ、手本や文章を正確に読み取る力や丁寧に書き続ける持続力や集中力を身に付けていく。
- ・文学的文章では感動した文や印象に残った文等、説明的文章では要点を述べている文等を選んで

視写していくようにする。

- ・低学年は特に「文章表現の技法を覚えること」や「字の上達」をねらいにして、家庭学習で繰り返し視写に取り組んでいく。

②低学年児童の読む力を高めるためのMIMの活用

- ・1・2年生を中心に定期的なアセスメントテストを行い、つまづきが見られる児童のニーズに合った小グループ指導や個別指導を実施する。

③問題解決型授業による思考力・表現力・判断力の育成

- ・学習過程「つかむ」「見通す」「自力解決」「学び合う」「振り返る」を基本として、基礎的・基本的な知識・技能を活用し、自分なりの解決方法で考え、それを表現する力を育成していく。授業の進め方についてもOJT担当教員と連携し、若手教員が学ぶ時間を設定していく。

(2) 授業以外での取組

①昨年度からの取り組みの継続

- ・週4日の朝学習の継続(火曜日：漢字 水・金曜日：読書 木曜日：計算)
- ・毎週火曜日の放課後補習教室「二寺子屋」の実施(2年生は金曜日実施)
- ・読書記録カードを活用した読書習慣の定着
- ・家庭学習習慣の確立(学年で内容を統一し、学年×10分+10分、毎日取り組む)

②振り返りシートやタブレット端末の活用

- ・空き時間や家庭学習などで振り返りシートやミライシードに取り組み、授業で学んだことを復習できるようにする。

(3) 学習振り返り期間の設定(年3回実施)

- ・振り返りシートを授業内や家庭学習などで繰り返し活用していく。
- ・学力調査前の2週間(今年度は5月下旬から6月上旬)
- ・今年度の学力状況調査問題の復習(11月下旬)
- ・次年度の学力状況調査問題に取り組む(2月中旬)

3 「令和4年度 墨田区学習状況調査」における目標

(1) 目標

- ・目標値と全国平均を全教科、全学年で上回るようにする。
- ・国語と算数を2年生は正答率90%以上、3年生は85%以上、4年生は80%以上、5・6年生は75%以上を目標とする。
- ・4・5・6年生の理科と社会の正答率が目標値と全国平均を上回るようにする。
- ・国語の書くことの平均正答率を全学年目標値+15%以上を目標とする。
- ・無回答率を4教科とも8%未満に引き下げる。